

かんたん! 特許情報分析

テーマ：
キムチ前線南下中
発酵食品・飲料関連特許

韓国では、11月ごろになると、新聞等で花見前線ならぬ、「キムチ前線」が南下してくるというニュースが流れるそうです。

これは、キムチ作りに適した気温をもとにキムチ作りを始める時期を予測したもので、この季節になると、家族総出で大量のキムチを漬け込むことからキムチボーナスの支給やキムチ休暇があることも珍しくないといわれています。

わが国の味噌・醤油といった大豆食品も栄養価や品質の面で世界的な注目を集めており、キムチとともに発酵食品と健康についての因果関係や伝統的な食品の有用性に関する医学的な研究がなされ、さまざまな機能性を示唆した論文なども多数発表されています。

“発酵のワザ”は古来より日常生活に身近なものとして知られていますが、昨今のヘルスケアブームと相まって、有用な機能に注目した製品開発がなされており、今後も医薬やサプリメント・美容といった分野とともに、活発な研究が行われるものと思われます。

そこで今回は、発酵食品関連技術の開発動向の概要をご紹介します。

Point

- ①の時系列推移によると、最近5年間の公開件数や出願人の増加が著しい。
- 昨今の健康志向の高まりを受け、食品・薬品ともダイエット用製品が関心を集めており、細菌・乳酸菌などを利用した製品に代わり、成分の添加によるものが上位を占めている。
- ③の技術構成要素分析では、食品が主流を占めていることが明らかであるが、薬品や化粧品関連への展開も顕著であり、発酵機能と組み合わせた製品への応用に向け、今後も活発な研究開発が行われるものと思われる。
- 全体の出願人構成では、内外国人比率は8対2となっているが、食品・飲料関連では国内の多様な規模の企業の参画が顕著となっており、薬品関連では外国からの出願が増加傾向にあることが分かる。

(1) 時系列公開件数・新規出願人数・新規発明者数の推移

	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
公開件数	100	121	106	153	183	227	240	261	274	304
新規出願人	103	81	80	120	133	166	156	167	135	155
新規発明者	253	184	208	345	434	512	472	537	454	581

(2) 時系列公開件数（技術分類別）

技術内容(主分類)	公開年	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07
食品の栄養改善；ダイエット用製品(添加物を含有するもの)		15	26	25	39	67	81	83	108	105	104
成分を添加するもの		8	15	13	13	26	26	18	19	28	20
細菌；そのための培地(細菌自体、細菌の培養、そのための培地)		7	10	3	28	33	15	23	28	0	1
※非アルコール性飲料；その乾燥組成物；それらの調製(栄養強化)		8	12	12	13	26	24	18	14	0	0
乳調製品；粉乳または粉乳調製品(添加物を使用するもの)		7	9	8	6	20	8	15	13	11	16
その他のアルコール飲料の調製(直接発酵によるもの)		7	7	2	7	6	8	9	14	33	12
固体廃棄物の破壊あるいは固体廃棄物の有用物化もしくは無害化		1	2	1	13	19	32	7	12	6	5
突然変異または遺伝子工学		12	5	0	9	10	6	12	19	10	15

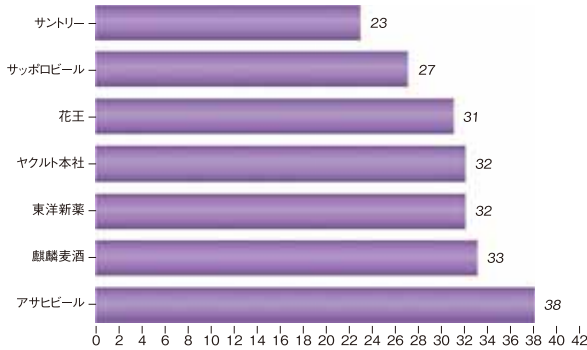
※はIPC分類の改定時に改廃されたコード

(3) 技術構成要素(キーワード)分析および主要分野の出願人別件数ランキング

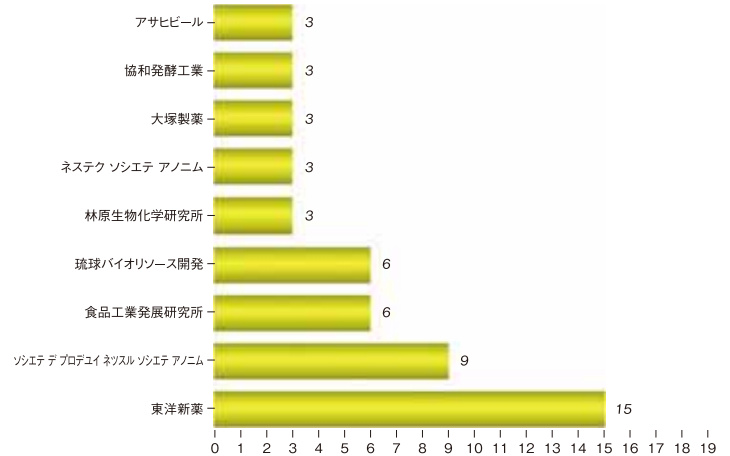
技術構成要素	件数※
食品・飲料関連	1555
薬品関連	222
飼料関連	102
化粧品関連	80

※全1969件

(食品・飲料関連)

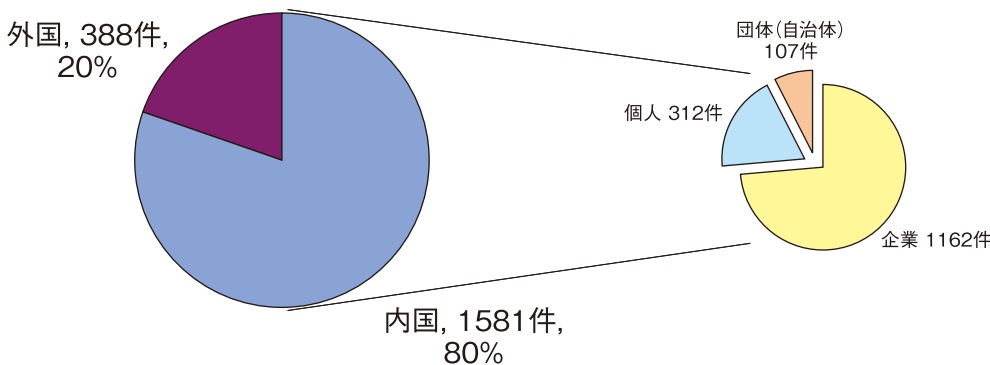


(薬品関連)



(4) 出願人構成分析

①(全公開件数 1969件)



②(食品・飲料関連)

内国	1356件	87.2%	企業	990件	63.6%
			個人	275件	17.7%
			団体	91件	5.9%
外国	199件	12.8%			

③(薬品関連)

内国	148件	66.7%	企業	99件	44.6%
			個人	42件	18.9%
			団体	7件	3.2%
外国	74件	33.3%			

本稿掲載のpatentマップは、「発明協会 特許マップソフト」で作成しました。膨大かつ難解な特許情報を効率的に整理し、可視化した「特許マップ」を活用することは、今や企業戦略には欠かせないプロセスとなっています。「発明協会 特許マップソフト」は、現状把握からその課題を繰り返し検証し、対処方法を立案することができるため、「最適な将来ビジョン」の設計に有効なツールとして、多くのユーザーから高い評価を得ています。また、上記(4)のように設定したキーワードを含む母集団データの件数や文献リストを表示するとともに、複数キーワードの合致率(予測値)をもとに重要な文献を効率的に抽出する独自機能を有しています。

詳細は、発明協会ホームページ(<http://www.jiii.or.jp/mst/mapsoft.htm>)を参照されるか、下記へお問い合わせください。分析用データの収集・提供(有償)のご相談や本稿へのご意見・ご感想もお待ちしております。